

泉州地域広域観光連携協議会



第4回 泉州地域の着地型観光調査研究委員会を開催
観光商品の開発や泉州をイメージする愛称などについて協議を行いました。

平成31年2月15日、岸和田商工会議所において、第4回泉州地域の着地型観光調査研究委員会を開催しました。

委員会では、初めに今回より新たに加わった6社の参画事業者（岸和田市からは井坂酒造場）の紹介が行われました。次に、事務局から本委員会の本年度における報告（案）について説明した後、本案に関する協議を含む自由討議が行われました。自由討議の中では、参画事業者からの活発な意見交換や専門家からのアドバイスがあり、観光商品の開発には、連携する各組織の役割分担を明確にするべきことや、泉州をイメージする愛称や歴女・山ガール・サイクルガールなどのネーミング等について検討しなければならぬことを認識しました。

次年度は、これまでの調査結果等をふまえて、泉州ならではの観光商品の開発に努めてまいります。

本委員会の本年度における報告（案）は次のとおりです。

泉州地域の現状分析

地域経済における地場産業の強み、地の利の良さを活かしていきれていない。

泉州地域の着地型観光の展開に向けた方向性

歴史的・文化的資源を活かし、交流人口を増やし、経済規模を維持する。

◆ターゲットは、「インバウンド」



◆前述のターゲットを集客するための方策としては、「泉州ならではの観光商品開発」、「来訪者対応」、「情報発信」、「人材育成」、「地域住民の機運の醸成」、「官民協同」の体制づくりが重要。

泉州地域の着地型観光の方向性の実現に向けた方策の具現化のイメージ

サイクリングによる泉州地域の地域資源のネットワーク化

◆具現化するには、「サイクリングルート」の構築、「観光資源を包括したマップの作成」が必要。

◆ただし、「ハード・ソフトの整備」、「サイクリングルートの愛称公募による泉州地域のPR」、「地域資源のネットワーク化のためのイベントの開催」が課題となってくる。